令和８年度　第２回 緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

日　時：令和８年９月 30 日(水)　16:00 ～ 17:14
場　所：琉球大学病院がんセンター(ZOOM 会議)

出席者 13 名：野里栄治（北部地区医師会病院)、知念崇（琉大病院)、砂川華（琉大病院)、
安座間由美子（県立中部病院)、崎原友美子（県立中部病院)、
友利寛文（那覇市立病院)、吉嶺厚生（県立八重山病院)、
川田聡（南部医療センター・こども医療センター)、
田場純子（沖縄県保健医療介護部健康長寿課)、
名嘉眞久美（キャンサー・グリーフおきな和)、真栄里隆代（ゆうかぎの会)、
与儀淑恵（NPO 乳がん患者の会　ぴんく・ぱんさぁ)、増田昌人（琉大病院）
欠席者２名：中村清哉（琉大病院)、浅野志麻（県立宮古病院）
陪席者１名：有山葉子（琉大病院）

報告事項

1.令和８年度第１回緩和ケア・在宅医療部会　議事要旨
野里部会長より【資料 1】に基づいて報告があった。

2.令和８年度　緩和ケア・在宅医療部会(部会・研修 WG・在宅 WG)委員名簿一覧について
野里部会長より【資料 2】に基づいて報告があった。
これまで部会では在宅緩和ケアに関する検討が十分ではなかったことから、次年度以降、部会と在宅 WG の連携をさらに進める方向性について意見交換が行われた。
一方、増田委員より、委員数が増えすぎると、一人ひとりの参画意識や議論の活発さが低下する可能性があることから、多職種・多施設の参加と、実効性のある運営とのバランスが必要との意見があった。
部会では拠点病院のみならず、沖縄県全体の緩和医療を視野に入れて活動していくことを改めて確認した。

協議事項

1. 痛みのスクリーニングとモニタリングデータ抽出について
(1)琉球大学病院（6 月～8 月）
砂川委員より、【資料 4】に基づき、報告があった。
･外来でのスクリーニング実施件数は徐々に増加し、対象診療科も広がっている。
･外来・入院ともに、スクリーニングによって一定数の患者の「つらさ」や日常生活上の困りごとが把握されている。
･特に外来では、「病状がよく分からない」「医療者へうまく伝えられない」といったコミュニケーション上の困難を把握し、説明時の支援等につなげる事例もある。
･一方、入院患者については、スクリーニングを実施していても、その後の対応に十分つながっていないケースがあり、形骸化が課題として挙げられた。
今後、スクリーニング後の対応状況について、病棟看護師等とともに検討していく必要があるとの報告があった。

(2)那覇市立病院（6 月～8 月）

友利委員より、【資料 5（当日資料)】に基づき、報告があった。

・除痛率は概ね 8 割前後から 9 割程度で推移しているものの、継続的に 90%以上を達成するには課題が残っている。

除痛率向上に向けて、

・オピオイド等による薬物療法

・神経ブロック

・放射線治療

などを適切に組み合わせる必要があるとの意見があった。一方、神経ブロック等は院外への紹介を要する場合もあり、薬剤処方と同様に速やかに実施することが難しいことも課題として挙げられた。

また、IPOS 等による患者本人の評価と医療者による評価を組み合わせ、患者の状態に応じたスクリーニングを行っていることが報告された。

(3)中部病院（4 月～8 月）

安座間委員より、【資料 6】に基づき、報告があった。

年度当初は人事異動等の影響もあり実施率が低下したが、リンクナース等へスクリーニングの意義を再説明することで、8 月には実施率が約 5 割まで回復した。

除痛率は概ね 60～80%程度で推移しており、改善が継続しない要因として、

・オピオイド使用に不慣れな医師がいること

・神経ブロックや放射線治療への連携が十分でないこと

などが挙げられた。

院内で実施可能となった神経ブロックの活用促進や、研修医・専攻医への緩和ケア教育を充実させることにより、改善の余地があるとの意見があった。

各施設とも、単にスクリーニングを実施するだけではなく、痛みが十分軽減されていない患者について、その要因や未実施の介入を確認し、適切な治療・支援につなげていくことが重要との認識が共有された。

2. ★今年度の活動★ 6 拠点病院での痛みのスクリーニング実施について（2026 年 2 月実施分）

野里部会長より【資料 7】に基づいて説明があった。

今後、集計データを整理・分析し、今年度中に成果として取りまとめる予定である。

3. 緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキンググループが所掌する分野の第 4 次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会版）の中間評価について

増田委員より【資料 8】に基づき説明があった。

各個別施策について、以下の 4 つの観点から評価を行う。

（1）ニーズ評価：満たされていないニーズに基づく施策となっているか

（2）セオリー評価：ロジックモデル上の論理的整合性があるか

（3）プロセス評価：必要な資源が確保され、施策が実施されているか

（4）インパクト評価：実施した施策が実際のアウトカム改善につながっているか

この 4 評価を踏まえ、総合評価を行う。

事務局で作成した評価シートについて、部会委員全員が個人単位で意見を記入することとなった。

記入事項は主に、

・オレンジ色の欄への意見記入

・A～D の判定

の 2 点で、全項目への記入が難しい場合は、記入可能な項目のみでも可とされた。

・シート 1～4：部会委員全員へ Excel ファイルを送付

・シート 5～10：内容確認後、翌週を目途に送付

・提出期限：令和 8 年 10 月 9 日（金）

・提出単位：各施設ではなく、委員個人

・委員は氏名を記載して提出するが、意見集約時には匿名化して整理する。

・集約した意見を基に事務局案を修正し、その後、幹事会・連携協議会等へ提出する予定。

4. 次回令和 8 年度 第 3 回緩和ケア・在宅医療部会の日程について

野里部会長より、令和 8 年 12 月頃開催予定で、調整さんにて日程決定とあった。

5.その他

(1) 日本緩和医療学会における沖縄県からの地区選出代議員について

増田委員より、日本緩和医療学会代議員の現状を確認することとなった。

次年度については別の委員への依頼も念頭に、候補者を検討することとなった。

(2) 緩和ケアにおける地域連携カンファレンスについて

砂川委員より、令和 8 年 10 月 23 日 18:00～19:30 に Zoom で地域連携カンファレンスを開催予定との案内があった。

さらに次年度以降について、琉球大学病院だけでなく、県内の拠点病院等から持ち回りで症例を提示し、沖縄県全域を対象とした地域連携カンファレンスとして展開する案が提案された。急性期病院から在宅療養へ移行した患者について、退院後の経過も含めて病院と在宅医療関係者が振り返る機会とすることで、地域連携の強化につながるとの意見があった。

運営事務局は琉球大学病院が担い、各施設が症例を提示する方法等を含め、次年度に向けて具体的に検討していく方向となった。

<u>報告事項</u>

3. 令和 8 年度　第 2 回緩和ケア在宅医療部会　在宅ワーキング　議事要旨

増田委員より【資料 9】に基づき、報告があった。

在宅 WG では、令和 8 年 11 月 21 日に在宅医療シンポジウムを開催予定であることが報告された。琉球大学病院の施設を会場として、現地参加は 50 人程度を予定。患者・家族・遺族等からの意見も交えながら、療養場所について一緒に考える内容を検討している。

詳細決定後、委員へメール等で周知する予定。

4. 令和 8 年度　第 2 回緩和ケア在宅医療部会　研修ワーキング　議事要旨

友利委員より【資料 10】に基づき、報告があった。

令和 8 年 12 月 19 日（土）に、琉球大学のクリニカルシミュレーションセンターにて、緩和ケアフォローアップ研修会を開催予定。講師については現在調整中であり、引き続き準備を進める。

5. 令和 8 年度　緩和ケア研修会開催日程一覧について

野里部会長より【資料 11】に基づき、報告があった。

6. 第 39 回日本サイコオンコロジー学会総会（2026 年 10 月 30 日（土）～31 日（日））

於高槻城公園芸術文化劇場　他

増田委員より【資料 14】に基づき、報告があった。

また、サイコオンコロジー学会の登録医制度および専門医制度について説明があり、今後の拠点病院指定要件となる可能性を見据え、各施設で登録医等の取得を検討するよう情報共有された。

7. その他

特になし

以上